

【国語】

【1】以下の文章を読んで、各問に答えなさい。

今回のお題には正直少々（ア）トマドいました。私の如き落ちこぼれが、質問の仕方を質問されているわけです。たしかに、教員は、よき問いを発しなければなりません。それこそが、受講者の思考に新たな地平を拓きます。逆に言えば、学生は、そんなことは気にせずに、一生懸命勉強したけれど分からないところを、（イ）タンテキに、質問すればいいのです。それに対して、改めるべき所の指導を含めて、【Ⅰ】対応できない教師がいれば、それは教師の問題です。

実は、この辺りが、質問に限らず、答案の指導などにも共通する課題です。つまり、学生が引っかかっているところ、課題として抱えているところは人それぞれで、人を見て法を（あ）説かざるを得ないのです。考えすぎの子に考えろと言っても毒ですし、考えていない子に気楽にやれと言ってもは目も当てられません。

以上を踏まえた上で、（い）敢えて共通に言えることがあるとしたら、質問は、「正解は何ですか」ではなくて、「どうしてこうなるのですか」であってほしいということです。調べたり考えたりしたけれど、なぜそうなのかが分からないことを問う態度が大切です。

法律学は、論理を重んじます。それは嘘ではありません。しかし、初学者には情報量が膨大すぎて全体が見通せません。また、教材にも、書かれていない前提、示されていない定義がたくさんあります。さらに、一見論理（ウ）ヒツゼン的なものであるかのような説明にみえるけれども、本当はいくつかある可能な筋道の中から選択されているに過ぎないこともあります。恥ずかしながら、勉強を進め、自分でも部分的にせよ教科書を書いてよく分かりましたが、その時代の最高水準の教科書で、（エ）モウラ的なんだと初読時には（いや数回読んでも）思っていた本でも、【Ⅱ】、分からないこと、踏み込みにくいことは避けて書いてあることがあります。

そうだとすれば、非常に能力の高い人は別として、普通の学生は、一人で【Ⅲ】悩むよりも、こりゃいったいどういうことですかと、（オ）ハダ合いの合いそうな教員に聞いてみるのが、一番です。優秀な教師であれば、なぜ引っかかっているのか、なにが疑問なのか、それが（う）普遍的な課題なのか、個人的な躓きなのかを見極めて、適切な返答や読書案内ができるはずです。

おそらくこの機能が、AIが発達しても、一番（え）置換されにくい、教師の機能ではないでしょうか。だとすれば、教師が研究者としても一流の専門家でなければ務まらないのも当然です。

あと、書き忘れました。初学時に感じた疑問は、的外れなこともあるでしょうが、法律家の思考に（お）染まりきる前のものとして、大事にしていきたいと思います。法律学の変化には時間がかかります。あるときその疑問が正当であったということになるかもしれません。

(1) 下線部 (あ) ～ (お) の漢字の読みを、ひらがなで答えなさい。

(2) 下線部 (ア) ～ (オ) のカタカナの部分を、漢字に直しなさい。

(3) 空欄【Ⅰ】～【Ⅲ】には、それぞれ、選択肢①～③のいずれかの語句が入る。
適切に埋めるとすると、どれを入れるべきか。それぞれ1つずつ選び、記号で答えなさい。

① 悶々と ② 実は ③ きちんと

(4) 本文に、タイトルを付けるとすると、あなたであれば、どのようなタイトルを付けますか。15文字以内で、タイトルを付けなさい。

(5) 本文の内容全体について、100字以内で要約しなさい。

【2】以下の各問いに答えなさい。

(1) 次の意味内容をもつ**故事成語**として最も適切なものを選択肢①～⑥の中からそれぞれ1つ選び、記号で答えなさい。

(Ⅰ) 年少の者を侮るべきではない、との戒め。

(Ⅱ) 他人の権勢などを利用することのたとえ。

- ① 青は藍より出でて藍より青し ② 雨垂れ石を穿つ ③ 後生畏るべし
④ 塞翁が馬 ⑤ 柔能く剛を制す ⑥ 虎の威を借る狐

(2) 次の意味内容をもつ**四字熟語**として最も適切なものを選択肢①～⑥の中からそれぞれ1つ選び、記号で答えなさい。

(Ⅰ) 売値がとても安いこと。

(Ⅱ) どこまでも。あくまで。

- ① 枝葉末節 ② 森羅万象 ③ 徹頭徹尾
④ 二束三文 ⑤ 不偏不党 ⑥ 有名無実

(3) 従来、**誤用**または**俗な用法**として扱われた言葉の用いられ方が、実社会での用いられ方の状況変化等を反映して、その旨、**国語辞典**の改訂の際に、**語釈**の記述内容に**追加・付記**等されることがある。

「従来から国語辞典にその言葉の**本来的な**意味内容として記述されているもの」は、(ア)または(イ)のいずれであるか。それぞれ、適切なものを選び、記号で答えなさい。

(Ⅰ) 役不足

(ア) その人の力量・能力などに対して、与えられた役目などが軽すぎることを。

(イ) 役目などに対して、その人の力量・能力などが足りていないこと。

(Ⅱ) 流れに棹^{さお}差す

(ア) 時流に乗り、さらに勢いを増すこと。

(イ) 時流に抗うとすること。

[国語出題 以上]